

神話伝説の山里

たかちほごう

「高千穂郷」通信

253

令和6年10月号



発行 宮崎県西臼杵支庁



50年以上の時を経てよみがえった「神代川」

じん だい がわ

高千穂町の中心部を流れる神代川は、その昔、魚が棲み自然豊かで、水遊びをする子供たちも見られるような地域に愛される川でした。

しかし、大雨などで川が氾濫し、橋が落ちるなどの甚大な被害を受けたことから、昭和47年に河川災害関連工事を行い、コンクリート三面張りにすることで治水能力を向上させた結果、子供たちや魚は姿を消し、古くからの環境や景観が失われ、地域住民の生活と川の密接な関係が無くなりつつありました。

そこで、西臼杵支庁では、自然豊かで地元で愛されていたかつての神代川の姿を取り戻すべく、平成28年度から河川再生工事を行い、今年10月、ついにすべての工事が完了しました。

神代川の河川再生工事が ついに完了しました！



神代川のかつての姿を取り戻すために、河川管理者である県と、まちづくりの主体である高千穂町や地域住民、宮崎大学教授などの学識経験者が意見を出し合い、河川再生計画を立案する「神代川河川再生計画検討委員会」が平成23年11月に立ち上がり、「神代川かわまちづくり計画書」が平成26年1月に策定され、国土交通省の「かわまちづくり」支援制度に登録されました。

その後、全体の詳細な計画を立案し、実施に反映するために「神代川かわまちづくり推進協議会（神代川かわまちづくり八百万神の会）」が平成26年5月に設立され、川の形や深さから、川岸に植樹する樹木の種類に至るまで、神代川のデザインについて細部まで検討を重ねてきました。そして、平成28年7月の起工式から約9年の期間を経て、今年、残っていた「真名井橋」の架替工事が終わったことで、神代川・天真名井周辺整備がすべて完了しました。

竣工式で 完成をお祝い！

10月5日（土）に神代川で行われた竣工式では、地域住民や県、高千穂町の関係者など約100名が完成を祝いました。

始めに、天真名井の前で、高千穂神社の後藤俊彦 宮司による祝詞の奏上や代表者による玉串奉奠などの神事が行われたあと、地元の^{もとくみ}本組神楽保存会による神楽「彦舞」^{ひこまい}「鉦女」^{うずめ}が奉納されました。

その後の式典では、本組公民館の甲斐 勝朗 館長と、高千穂町の甲斐 宗之 町長が主催者を代表してあいさつしました。甲斐 館長は、「元の姿に戻るのか不安もあったが、工事が進むにつれて魚が戻り蛸が飛ぶようになった。今後は、誰もが水に親しむ施設として、この場所を次世代に守り伝えていかなければならない」と話していました。

次に、町立高千穂小学校の5、6年生による校歌斉唱があり、「神代川の清き水 とわに流るるせせらぎの ——」と始まる校歌を、町立高千穂中学校吹奏楽部の伴奏で元気よく歌っていました。

最後に、くす玉開きで完成を祝い、式典の終了後は、芝生の上でくつろぐ方や、川辺に下りて水遊びをする子供たちの姿などが見られ、地域住民に愛されていたかつての川の風景が現代によみがえったようでした。



天真名井の前で行われた神事



本組神楽保存会による神楽の披露



あいさつをする本組公民館甲斐 勝朗 館長

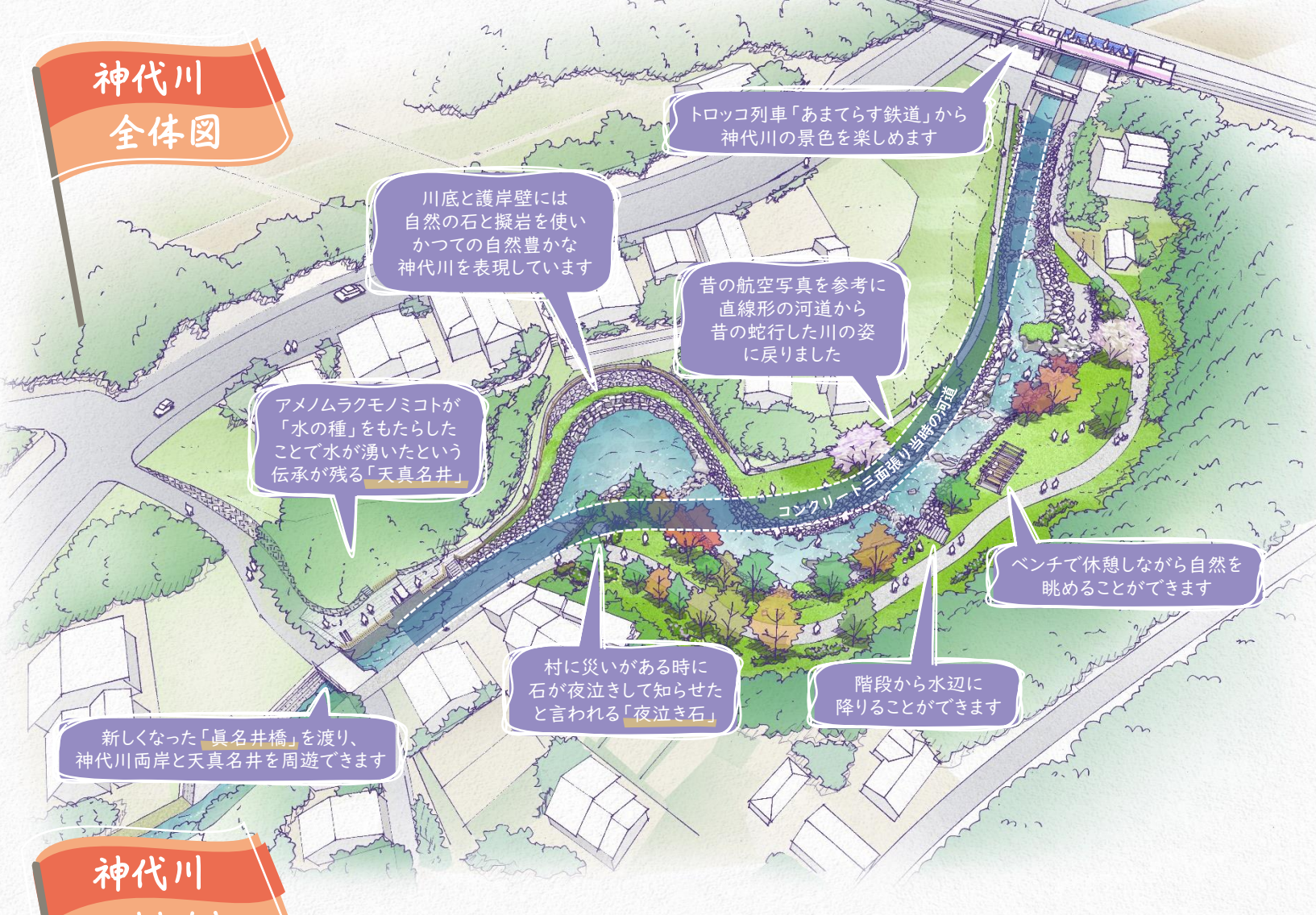


校歌を斉唱する町立高千穂小学校5、6年生

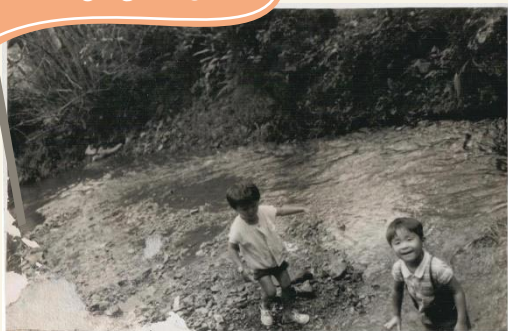


校歌の伴奏をする町立高千穂中学校吹奏楽部

神代川 全体図



神代川 いまむかし



昭和30年代に撮られた写真。地元の子供たちが、まだ川底が浅かった頃の神代川で遊んでおり、この川が地域住民の生活に深く関わっていたことが分かります。

(本組公民館長 甲斐 勝郎さん所有)



昭和47年に河川災害関連工事を行い、コンクリート三面張りにすることで治水能力を向上させた結果、子供たちや魚は姿を消し、古くからの環境や景観が失われました。



河川再生工事が完了した現在の様子。自然石の使用や芝生・樹木の植栽などによって、地域住民と密接に関わり愛されたかつての姿がよみがえりました。

担当者から ひとこと



西臼杵支庁 土木課
すみれ 永吉 紫花 技師

今年度から西臼杵支庁に配属され、神代川の担当となりました。

高千穂町の中心を流れ、歴史・文化を語る聖地と呼ばれる「神代川」のかわまちづくりは壮大で、自然豊かな川の復活と、川を活用した地域のにぎわい創出を目指し、整備を進めてきました。

計画から合わせて13年という長期にわたる事業で、多くの方が関わり、バトンがつながれて、今回竣工式を迎えることができたことに、とても感動しました。同時にこの事業に携われたことをうれしく思っています。

整備を終えた神代川が、将来にわたって多くの人の憩いの場となり、神話の舞台としても愛されるように、今後も、環境調査や景観の維持に取り組んでいきます。



県立五ヶ瀬中等教育学校 創立30周年 記念式典



Facebook
Instagram



西臼杵支庁 SNS
更新中！

が開催されました！

10月19日（土）、県立五ヶ瀬中等教育学校の創立30周年記念式典が開催されました。

同校は、「フォレストピア宮崎構想」に掲げる「学びの森」の中核として平成6年に設立され、開校当初から地域と協働した探究活動「フォレストピア学習」に力を入れており、地域に根ざしたローカルな学びを体験的・探究的に実践しています。



生徒代表誓いの言葉を述べる 5年生 金丸 直拓さん

歴代校長や卒業生など約400名が参加した今回の式典では、学校沿革報告や学校長式辞のほか、生徒代表誓いの言葉として、5年生の金丸 直拓さんが「新たな価値を創造するために、多角的かつ俯瞰的な視野を磨き、学びの森の伝統を発展的に継承することを誓う」と述べました。

記念式典後は、初代校長の永友 忠昭さんが「学校創設のとき」と題して講演を行い、同校の太鼓部・書道部のパフォーマンスや延岡フィルハーモニー演奏、代表生徒による意見発表が行われ、同校の節目をお祝いするとともに、今後のさらなる飛躍を誓いました。



初代校長 永友 忠昭さんの講演



代表生徒による意見発表



延岡フィルハーモニー演奏



林業普及指導員九州ブロックシンポジウム



で西臼杵の取組を発表しました！

10月29日（火）から30日（水）にかけて、「林業普及指導員九州ブロックシンポジウム」が佐賀市で開催され、西臼杵支庁林務課の高見 麗美主査が、「西臼杵普及区における再造林率向上に向けたコンテナ苗生産の取組」と題して事例発表をしました。

林業普及指導員とは、森林・林業に関する技術や知識の普及を目的に、森林所有者等に対して森林施業に関する指導などを行う資格を持つ都道府県職員のことであり、このシンポジウムは、林業普及指導員同士が互いに研さんし、地域における現状や課題を共有して今後の林業普及指導活動につなげることを目的に、林野庁が主催し毎年開催されています。



今回、高見主査は、宮崎県の代表として出場し、発表では、本県が「3つの日本一挑戦プロジェクト」の一つとして掲げる「グリーン成長プロジェクト」の目標である「再造林率日本一」に対する取組として、西臼杵地区で行っている「コンテナ苗の供給体制作り」の内容を報告しました。

惜しくも最優秀賞は逃したものの、本県の代表として西臼杵地区の取組を堂々と発表し、コンテナ苗の生産が増加していることを九州各県にPRできました。



発表した西臼杵支庁林務課 高見 麗美 主査とスギのコンテナ苗

発行／宮崎県 西臼杵支庁 編集／総務課
〒882-1101 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井22
TEL 0982(72)2181 FAX 0982(72)3760



神話伝説の山里
「高千穂郷」通信

